



北海道大学

平成27年度 第3回

岩見沢市地域公共交通活性化協議会

コミュニティカフェ実証実験および
市民意識調査
分析結果報告

平成28年2月16日

北海道大学 交通インテリジェンス研究室

阿部 麻友子

岩見沢市の公共交通に関する 北海道大学の取り組み

- 「であえーる」におけるコミュニティカフェの実験
 - 交流施設の創出による中心市街地への来訪行動・回遊行動、バス利用に関する実証分析
- 岩見沢市民を対象とした中心市街地来訪に関する意識調査の実施
 - 文化・交流施設が中心市街地にあること
 - 路線バスのサービスレベルが改善されること
による中心市街地来訪の選好意識を分析



コミュニティカフェ実証実験の概要

期間 平成27年12月8日(火)～20日(日)

時間 午前11時～午後4時30分

内容 学生と来訪者での懇談

茶菓子の提供

バルーンアート、折り紙など



道教育大岩見沢校のまちなか公開講座と北大のコミュニティカフェが行われるひなた広場

中心街に活気 学生一役

岩見沢で企画続々



道教育大岩見沢校のまちなか公開講座と北大のコミュニティカフェが行われるひなた広場

0116・25・4111
(内線3号機)

同広場が、買物を終えたバス持ちの人たちの休憩スペースに活用されていることから、市が関大と協働し、イベントの開催を呼びかけた。

道教大は今年、21日、1月18、25日の計4回「まちなか公開講座」を開催し、実際の大学の講義を同広場で行う。初回は「自分の得意技でまちを盛り上げるには？」がテーマ。この講義を開催する同大の1年生25人とともに、市だも自由に企画してもらい、マチの活性化へ、自分に何ができるかを考えるという。

講座を担うのは同大芸術・スポーツ・ビジネス専攻の宇田川一教授は、「市民も楽しめる内容にしたい。学生にとってまちと交流できる貴重な場になる」と強調する。2回目以降も高齢者福祉やバス路線のあり方など、市民生活に密着したテーマで、それぞれ午後1時から1時半まで予定している。

北大は今年8月、20日の午前11時から午後4時半、同広場で「コミュニティカフェ」を開催する。同大工学部や大学院工学研究院の学生25人らが常駐し、飲み物を提供しつつ、訪れた市民と会話を深める。

市企画室は「高齢者だけでなく、家族連れや高校生なども対象。関大とも工夫を凝らしたイベントを企画してきたい。多くの市民が来たい」と話す。

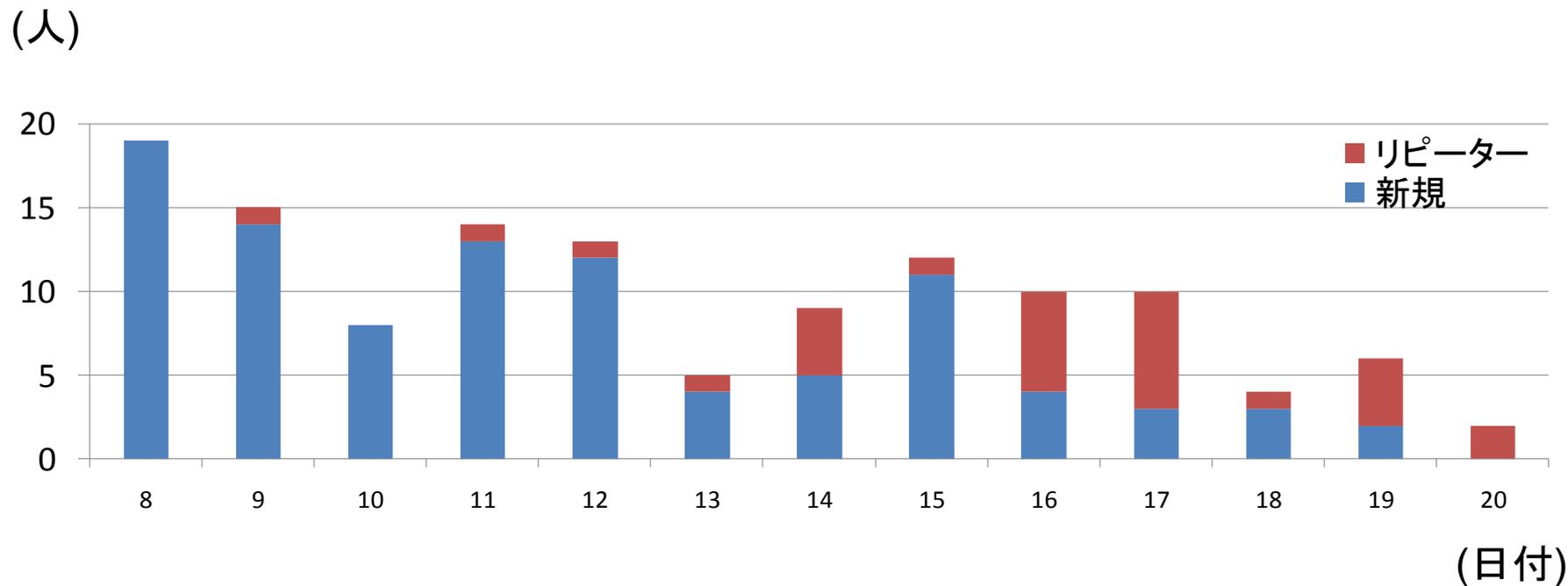
問い合わせは市企画室

【岩見沢】今月から来月にかけて、道教育大岩見沢校と北大がそれぞれ、あえーる岩見沢(4階)2階の「ひなた広場」で中心市街地活性化のイベントを開く。市民と学生が一緒に大学の講義を聴いたり、ゲームを楽しんだりする。「一人盛りが滅つているマチのいきいきづくりに一役買いたい。」(教育大との協働)

(岩見沢一人)

岩教大▼公開講座を計4回
北大▼カフェ 市民と交流

コミュニティカフェの来場者数



総来場者数 172名

うちリピーターの割合 22.8%

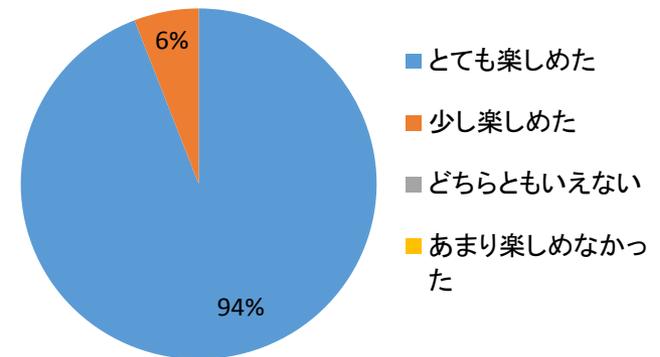


コミュニティカフェの来場者数

	人数	リピーター	平均滞在時間	リピーター率
8日	19		0:50	0.0%
9日	15	1	1:07	6.7%
10日	8		0:35	0.0%
11日	14	1	0:40	7.1%
12日	13	1	0:40	7.7%
13日	5	1	1:37	20.0%
14日	9	4	1:12	44.4%
15日	12	1	0:40	8.3%
16日	10	6	0:27	60.0%
17日	10	7	1:24	70.0%
18日	4	1	0:36	25.0%
19日	6	4	0:50	66.7%
20日	2	2	4:30	100.0%
全日	127	29	0:53	22.8%

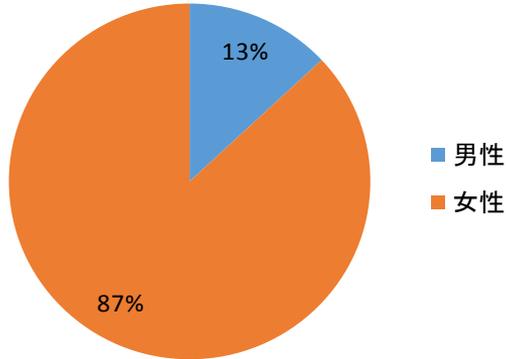
時間別来場者数(入場時間をカウント)	
11時	37
12時	26
13時	14
14時	17
15時	25
16時	6

コミュニティカフェに来訪しての満足度

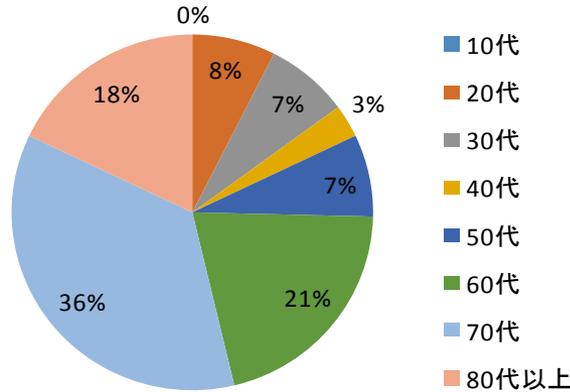


コミュニティカフェ来場者の属性・交通行動

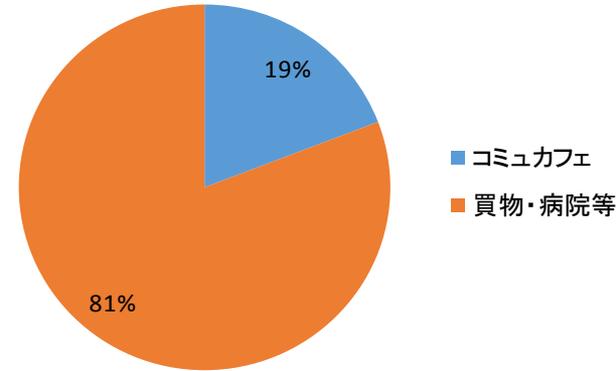
性別



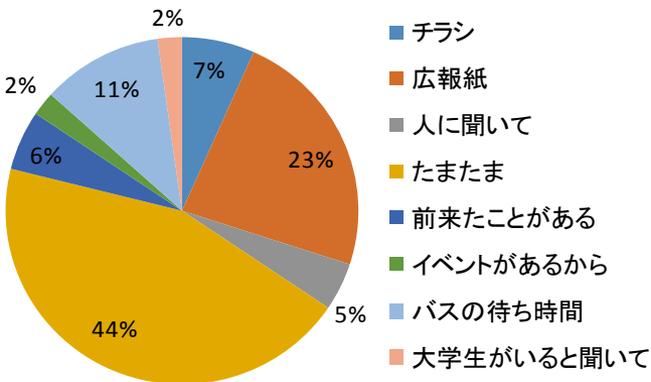
年齢



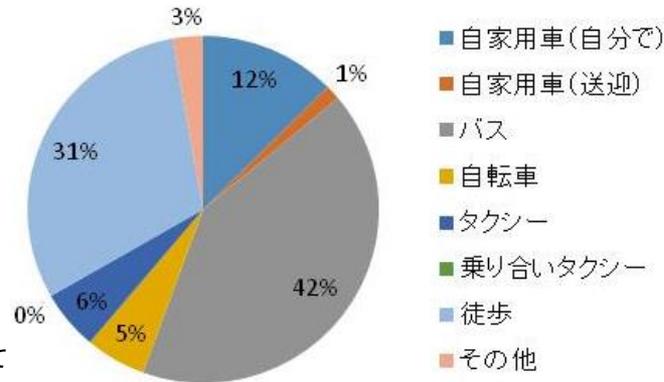
今日の外出目的



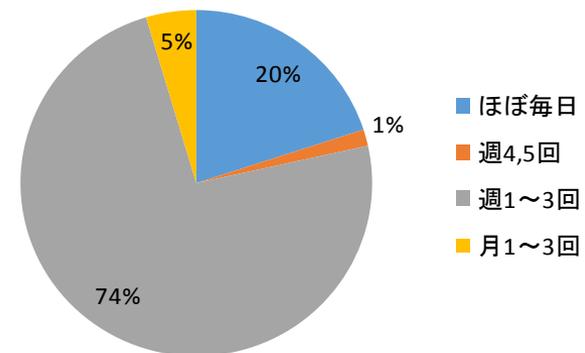
コミュニティカフェ 来訪のきっかけ



交通手段

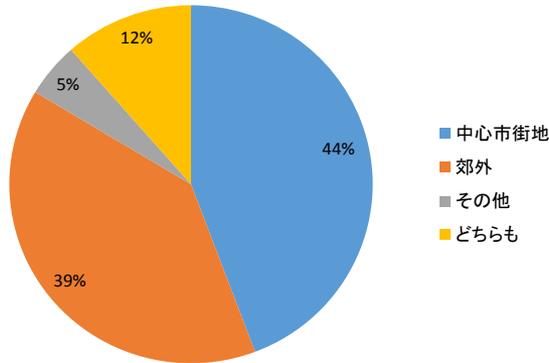


普段の買い物頻度

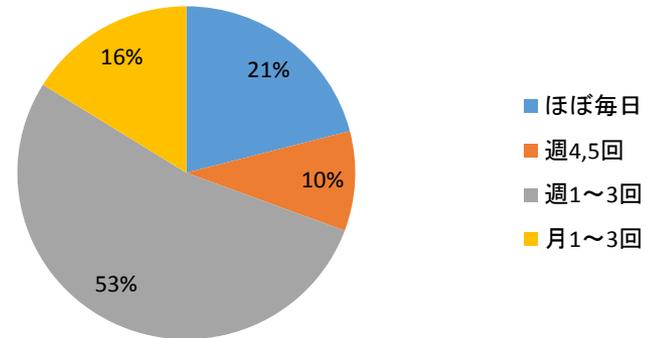


コミュニティカフェ来訪者の属性・交通行動(2)

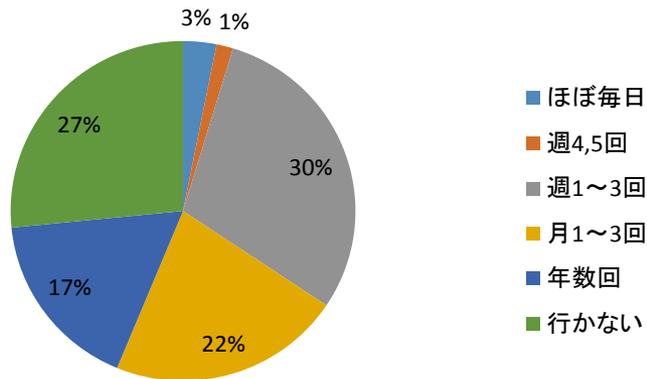
普段の買い物をする場所



中心市街地訪問頻度

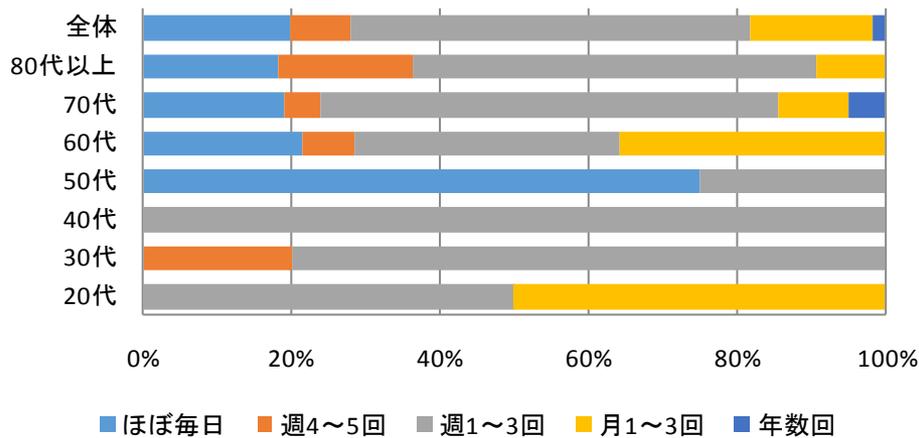


文化交流施設訪問頻度

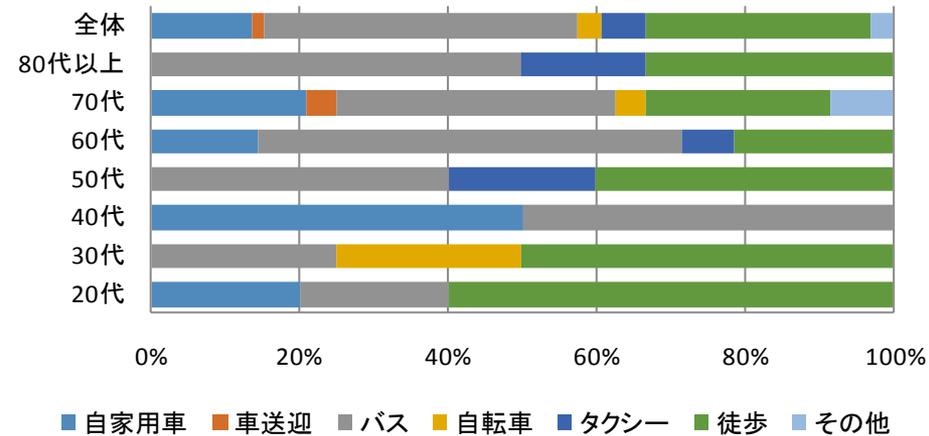


コミュニティカフェ来場者属性・交通行動(3)

年代別中心市街地訪問頻度



年代別交通手段



- コミュニティカフェ来場者は中心市街地への訪問頻度も毎週来ている人が多い
- 交通手段はバス、徒歩の割合が非常に高い

コミュニティカフェ来訪者の感想

(アンケート自由回答欄でのコメント)

- 定期的に行えば、楽しみにしている人が増えると思います。
- こういう場で若い方と場を持てるのは楽しいですし、いろんなことが刺激になったり元気になるので、もしできるならこういう場を創って続けてほしいと思います。
- 大変楽しくお話しできました。ありがとうございました。
- 中心市街地にあるので気やすい。若い学生さんと話ができ楽しかったです。またよろしくお願いします。
- 色々な人の刺激がある街になるといいですね。集うとなるとカフェになるのだろうか？前にNHKでやったしゃべり場とかあったら参加したいな。
- お話がとても楽しかったです。何もなくぽつんと座っているより、若い人との話も気分が明るくなります。
- お話した内容をぜひ市政につなげてください。
- バスターミナルがであえーるにあれば。
- 話題豊富な学生さんと楽しくお話しできました。
- コミュカフェはとてもいいですが、市や広報がもっと積極的にアピールするといいと思います。
- 新聞で読んで知っていましたが、今日は思いがけなく交流させてもらい、対応してくれたお兄さんも感じが良くてさわやかな方でした。学生生活頑張ってください。
- 学生さんとお話しできて楽しかったです。
- 若い方との交流があったらと思っていました。仲間になれた喜びと昔の若いころを思い出して、楽しい時間をありがとうございました。
- カフェやご飯屋さんが周辺にないので足が遠のきがち。しかしコミュニティカフェのような、他店舗のものが持ち込み可の休憩所があると便利だと感じた。ちょっと寒いけど。郊外に大型SCだけでなく雑貨店もとられてしまっているので、なかなか〇〇の買い物のついでにという訪れ方をしづらい。3条通りの個人病院等が増えてきているので、そのついでに立ち寄るのはありだなと思った。



岩見沢市民を対象とした中心市街地来訪に関する意識調査の実施



文化・交流施設が中心市街地にあること

路線バスのサービスレベルが改善されること

によってどの程度、中心市街地来訪者が増えるのか？

意識調査の概要

意識調査実施日:

平成27年11月15日

調査方法: 投函配布・郵送回収

1世帯あたり調査票2部ずつ配布

調査票配布・回収状況

	配布世帯数	配布票数	回収票数	回収率
北地区	300	600	121	20.2%
西地区	300	600	118	19.7%
東地区	300	600	105	17.5%
交通空白地域	100	200	63	31.5%
合計	1000	2000	407	20.4%



中心市街地来訪選択モデルの構築

ネスティッドロジットモデルの適用

効用関数

$$U_{car} = b_1 x_{licence} + b_2 x_{library} + b_3 x_{goout} + b_4 x_{act} + \alpha_{car}$$

$$U_{bus} = b_5 x_{busfare} + b_2 x_{library} + b_3 x_{goout} + b_4 x_{act} + b_6 x_{old6} + b_7 x_{hospital} + \alpha_{bus}$$

$$U_s = b_1 x_{licence} + b_8 x_{week} + b_9 x_{cityfreq}$$

説明変数		パラメーター	t値		
licence	運転免許有無	3.084	6.473	***	サンプル数 563 尤度比 0.153 修正尤度比 0.131
library	図書館	0.863	2.073	*	
goout	外出好きダミー	0.448	1.361		
act	交流好きダミー	0.529	1.347		
busfare	バス運賃	-0.662	-1.452		
old6	60歳以上ダミー	1.702	2.989	**	
hospital	通院目的	0.510	1.385		
week	平日	-0.515	-1.631		
cityfreq	中心市街地訪問頻度	-1.189	-2.388	*	
α_{car}	定数項(車)	-1.536	-2.743	**	*** 0.1%有意
α_{bus}	定数項(バス)	-1.629	-1.660	.	** 1%有意
ramda	ログサムパラメータ	0.715	2.590	**	* 5%有意 . 10%有意

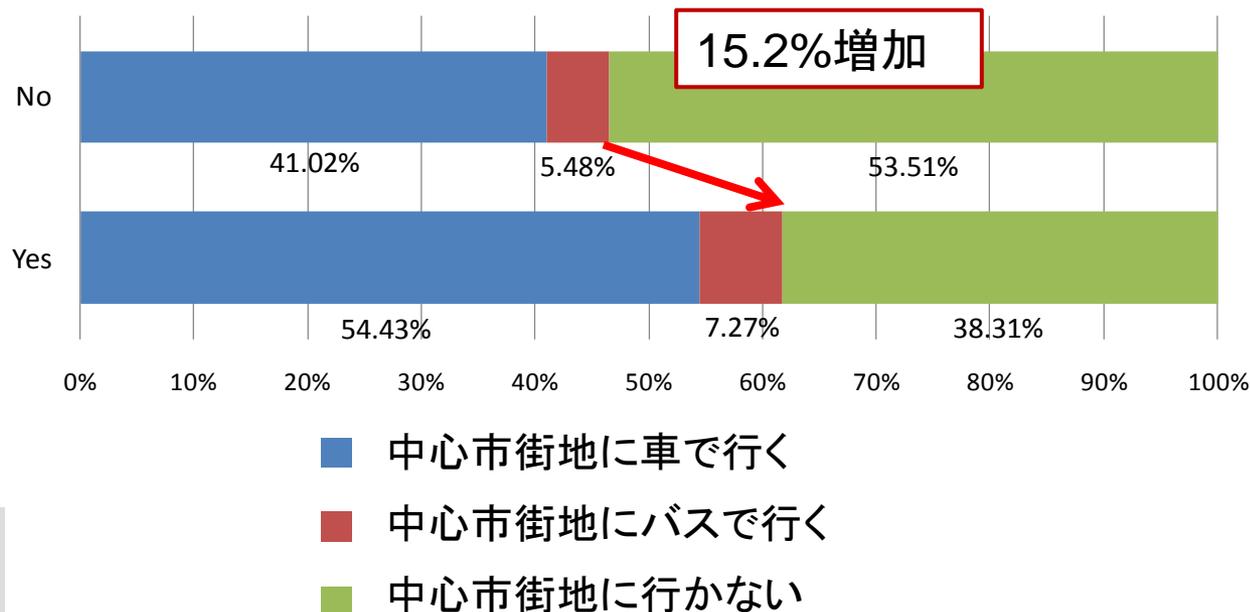


中心市街地来訪選択モデルによる分析

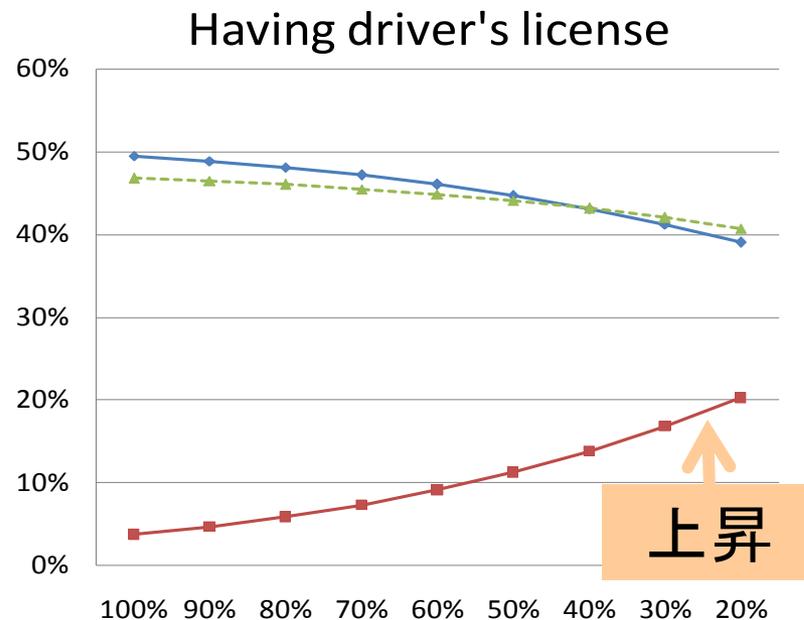
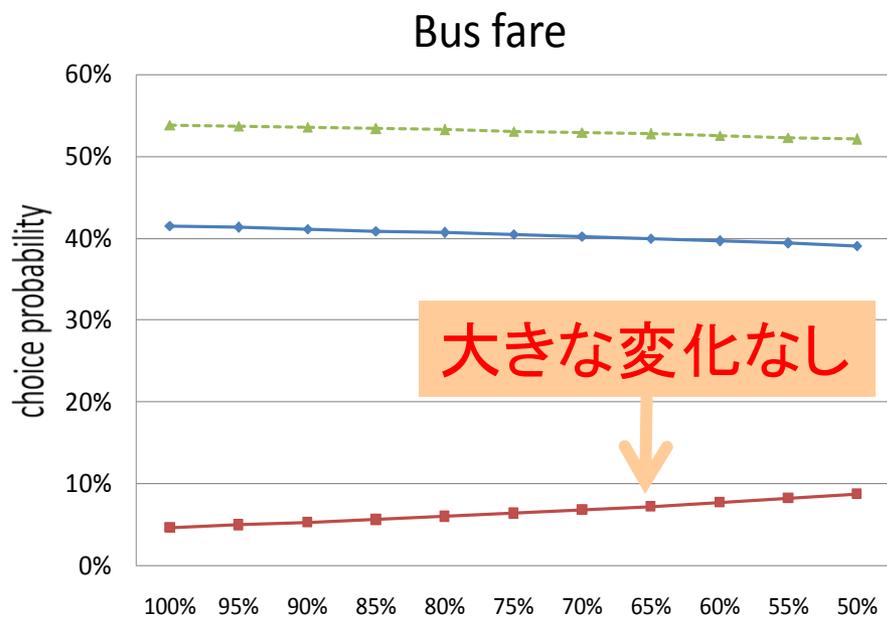
モデルからいえること

- 図書館が中心市街地にあると来訪者が増加する
- コミュニティカフェ・公開講座は、モデルからは効果があるとはいえない結果となった
- バスのサービスレベルの改善は、利用者の増加に効果があるとはいえない結果となった

図書館の整備による中心市街地の選択の変化



中心市街地来訪選択モデルによる分析(2)



バス運賃の割引

運転免許保有率の変化

現状

- ◆ Going to city center by car
- Going to city center by bus
- ▲ Not going to city center

実証実験と意識調査の結論

- コミュニティカフェの実証実験
 - 来訪者は非常に満足。多くがバスを利用している
 - 中心市街地に設置することの意義は認められる
- 岩見沢市民全体で見るとどうか？
 - 中心市街地来訪選択モデルからの考察
 - コミュニティカフェ・公開講座は有意にはならない
 - バスのサービスレベル改善も大きく寄与しない

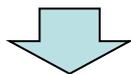


- 実験とモデルから意味することは
 - バスでコミュニティカフェに来るようなニーズは、市民全体からみると規模が小さい
 - 多くの市民は自家用車で自由な場所に行っている(自身の交流の場所があり、自由に行ける状況にある)
 - 自家用車が便利な状況にある大多数の市民は、バスのサービスレベルが上がってもバスは使わない(ある意味、これが現実か)



中心市街地活性化と公共交通の将来展望

- 高齢化が進み、自家用車を自由に利用できない市民が増えてくる
 - 公共交通は自家用車と比較すると、自由に行くことができる場所が限定される



- 中心市街地に交流施設・文化施設など、様々な機能を持った施設を集約し、整備することは将来きわめて重要になる
- 公共交通の利用促進のために、利便性の高い路線再編をはじめとした、サービスレベルを上げることは重要
- 同時に、自家用車の利用に偏った市民の意識を変えることも非常に重要
 - どのようにモビリティマネジメントを展開するかが今後の課題

